Vol.009

梅島ふるうつ屋

月の養蜂だより 9月号

今月のひとこと

少しずつ秋の気配を感じるようになりました。養蜂場では、ミツバチたちが冬を越すための準備をする季節へと変わっていきます。長雨で全滅してしまった群もありますが、元気なミツバチたちと桜を迎えられるように、今できることを一つずつ積み重ねています。

蜂蜜のプチ知識

蜂蜜の減る時期

蜂蜜は、ミツバチによっても違いがあります。日本で一般的に販売されている蜂蜜は、セイヨウミツバチの蜂蜜。一方、日本にも昔から暮らしているニホンミツバチも蜂蜜を集めます。こちらは採れる量がとても少なく、年に一度しか採蜜しないことも。そのため幻の蜂蜜と呼ばれることもあります。

ちょっとだけ環境の話

ミツバチは、蜂蜜を集めるためだけではありません。花粉を運ぶことで、植物が実や種をつくる手助けもしています。つまり受粉です。私たちが食べる農作物も昆虫に支えられているということですね。

養蜂家のひとりごと



養蜂を始めた頃は、経験を積めばミツバチのことが分かるようになると思っていました。でも、やればやるほど分からないことが増えていきます。「昨日まで元気だったのに、なぜ？」その答えを探し続けるのも、養蜂家の仕事なのかもですね。

今月のミツバチ：養蜂の話

9月の養蜂場で特に怖い存在がオオスズメバチ巣箱の前にやってきてミツバチを襲い、場合によっては巣箱そのものが大きな被害を受けます。実際に今年も、養蜂場ではオオスズメバチの襲来がありました。春に蜂蜜を採るためには、まずこの秋を無事に乗り越えることが大切です。

季節ごとの管理

ここから本格的に冬越しの準備に入ります。巣箱の中の蜂蜜は足りているか、女王蜂は元気か、ダニは増えていないか。秋の管理が、来年の春のミツバチにつながります。

今月の一枚

9月にとれたニホンミツバチの蜂蜜です。
この蜂蜜が採れるのはまた来年です。



ここまで読んでくださり、ありがとうございます。
ミツバチや蜂蜜、環境などについて、少しでも身近に感じてもらえたら嬉しいです。
InstagramやTikTokにて365日で復活する養蜂家として発信もしています。